

平成26年度 学校自己評価(保護者・教職員)アンケートのまとめ

須坂市立須坂支援学校

保護者アンケートは10月24日に配布し、10月末までに回収した。教職員アンケートは11月初めに実施した。

評価 : A「そう思う」 B「おおむねそう思う」 C「そうは思えない」 D「そうは思わない」

	評価の観点	評価	保護者				教職員				アンケート評価の結果 外円:保護者 内円:教職員	課題及び改善策・向上策			
			人数	割合	コメント	人数	割合	コメント							
1	新たな学校づくり		A:15(63%) B:9(38%) C:0(0%) D:0(0%) 合計:24	・おたよりいつもありがとうございます。須坂支援学校Q&Aではいろんな質問が寄せられていて、とても地域の関心の深さが感じられます。 ・忙しがって目を通せず申し訳ない。	A:10(67%) B:5(33%) C:0(0%) D:0(0%) 合計:15	・おたよりやホームページの更新等、教頭先生にごくろういただき、確実になされていて、情報が十分発信されていると思います。ホームページ、それぞれの部で確実に更新していければと思います。	<p>0% A 0% B 33% C 67% D</p>	新たな学校づくり	保護者の評価は、概ね良好である。開校から4年が経ち、中学部が設置されて、本校の教育実践や児童生徒の活動等が地域に少しずつ浸透してきたからではないかと、推察される。						
2	人権の尊重		A:18(75%) B:6(25%) C:0(0%) D:0(0%) 合計:24	児童生徒一人一人の人権が守られ、教育的ニーズに応じた授業実践や関わり方ができているでしょうか。	A:7(47%) B:8(53%) C:0(0%) D:0(0%) 合計:15	・児童生徒が自己肯定感を持てるような支援を心掛けていきたいです。	<p>0% A 0% B 53% C 47% D</p>	人権の尊重	保護者からはおおむね良好な評価をいただいている。これは、いじめや教員の関わりについて、ていねいな調査を重ねていることが評価されているものと思われる。 常に人権感覚を磨く研鑽を積み、教員同士が注意しあえる関係でありたい。						
3	個別の指導計画		A:18(75%) B:5(21%) C:1(4%) D:0(0%) 合計:24	・毎回きめ細かな指導計画と指導ありがとうございます。	A:8(53%) B:7(47%) C:0(0%) D:0(0%) 合計:15	つねに「個別の支援計画」に沿った実践であるかを見直しながらやっという意識で全体が動いていると思いますが、自分自身もう少し意識した実践ができればと反省しています。 ・個別の指導計画をいつも見れるところに置いておき、適切な場での適切な支援を心がけた。	<p>40% A 0% B 47% C 75% D</p>	個別の指導計画	個別の指導計画について、保護者と共に作成、評価する実践を積み重ねている。学校でも個別の指導計画に照らして、授業の目標設定、評価を行い、その都度見直しをしてきた。保護者からはおおむね良好な評価をいただいている。 教職員の評価は日頃から支援計画と日々の支援とのつながりを明らかにしていく必要性が指摘されている。						
4	保護者との連携		A:19(79%) B:5(21%) C:0(0%) D:0(0%) 合計:24	連絡ノート、家庭訪問、懇談会などを通して児童生徒の様子を把握し保護者と連携した教育活動を実践することができているでしょうか。	A:9(60%) B:6(40%) C:0(0%) D:0(0%) 合計:15	・朝、その日の担当の先生がすぐわかると助かります。	<p>0% A 0% B 40% C 79% D</p>	保護者との連携	登下校の送迎時の時間、連絡ノート等で、学校での様子が伝えきれないときには電話や家庭訪問などでもして連絡を密にするよう心がけてきている。 一人一人の教育的ニーズに合わせた支援を行うため保護者との連携を図る必要があり、今後も引き続き連絡の手段や方法を工夫していきたい。						
5	個に応じた支援		A:20(83%) B:3(13%) C:1(4%) D:0(0%) 合計:24	児童生徒一人一人の特性に応じた教材教具の工夫、わかる状況づくり、視覚的な援助などの適切な支援ができているでしょうか。	A:8(53%) B:7(47%) C:0(0%) D:0(0%) 合計:15	・教室にプロジェクターとスクリーン、書画カメラを設置してもらったことにより、視覚支援が充実し、生徒たちが理解しやすくなった。 ・自分からはなかなか進んで考えられないのですが、まわりの先生方から学ぶものが多く、今後自分でもできるようにしていきたいです。	<p>40% A 13% B 47% C 83% D</p>	個に応じた支援	保護者の評価はおおむね良いが、教職員の評価は必ずしも高くない。保護者の中にはニーズに応じた支援の工夫をさらに求める声もある。学習計画を立てるに当たり、個々の目標に照らして評価規準、観点を設けての実践研究を推進しており、今後も継続していきたい。個別の支援について保護者との共通理解のもとで進めていく必要がある。						
6	チームでの支援		A:17(71%) B:6(25%) C:1(4%) D:0(0%) 合計:24	複数担任や学校職員がそれぞれの個性や力を発揮して、一人一人の児童生徒について共通理解をして、指導・支援にあたることができているでしょうか。	A:5(33%) B:8(53%) C:2(13%) D:0(0%) 合計:15	・教員補助員の先生方には、授業や教材等の準備を始め、児童生徒への対応等、本当に助けていただきありがとうございます。 ・教員補助員の先生たちの適切な支援にハッとさせられることが多い。チームとして、感じていらいっしょなことを話しやすい雰囲気大切にしたい。 ・一学級の児童数、職員数が多く、個々の児童への共通理解、指導支援の統一ができていくのが実状。担当のローテーションを組んでも担任が担当せず、教員補助員の先生にずっと担当してもらって児童もいる。日々の準備に追われ、細かい打合せができない。	<p>40% A 13% B 33% C 71% D</p>	チームでの支援	指導学級の運営、生活単元学習など部全体の活動で、OTを中心にしたチームティーチングで、指導に当たっている。 教員補助員も含めた授業者間で児童生徒個々の目標や評価規準を確認し、情報共有する時間の確保が必要であり、支援者によって支援内容に温度差が生じない運営を目指したい。						
意見・要望等	保護者		<ul style="list-style-type: none"> さまざまな個性の子どもたちをまとめてくださり、ありがとうございます。「関わりたいけどうまく入れない」そんな子が笑顔で声日あったことを話してくれる目を心待ちにしています。 先生方に声をかけていただき、学校の様子がよくわかります。バス通にもだいぶ慣れてきました。が、「着きましたメール」はとても安心します。 一人ひとりの指導に対して前向きな取り組み、とてもありがたい。親が尻込みしていた宿泊学習など、先生方のご苦勞の中参加できました。 毎日心温かな先生方に囲まれ、毎日笑顔いっぱい過ぎて感謝でいっぱいです。 支援を必要とする子どもたちに手厚く指導いただき、ありがとうございます。 ADLの自立を目指す子どもにとっては援助する人員を増やしてほしい。 行事について尋ねても担当の先生によって場所、スケジュール等ちゃんとわかっていないことがあり、残念な気持ちになる。 教室の視覚支援がより整頓されていないと気の散りやすい子には気になる。 学校便りの指示がわかりにくい時があった。プール参観が「雨天中止の場合は教室で〇〇」とあり、プールは中止でもほかの授業参観はあると思いついてしまい、親が行ってもよいのかどうかも書いていただけると助かります。 				教職員		<ul style="list-style-type: none"> 子ども同士のトラブルからのけがや、遊びの中でのけがが等はないようにしていきたい。そのためにも担任同士が声をかけあい、人任せにせず、担任1人ひとりが緊張感を持って指導に当たってほしい。 				評価を踏まえた今後の学校運営の方向		保護者アンケートの回収率は27人中24人の提出で、89%であった。昨年度の75%からさらに回収率は高まっており、調査結果は全体的な傾向を示していると思われる。小1から中3まで全学年が揃い、児童生徒数、教職員数ともに増えてきた。児童生徒の指導や支援、学校運営上の校務分掌の業務分担等については、職員会議において学期毎に反省を確認し改善策を検討している。今後も、小学部・中学部の独自性を保ちつつ、部を越えた連携をして一体感が訪れる学校づくりに取り組んでいく必要がある。そのために、学級の児童生徒について担任、教員補助員共に発達段階の状況や長・短期の目標、評価規準などを情報交換し、部会や職員会議において共通理解した上で、指導に当たっていく必要がある。今年度は校歌の制定、初めての卒業式が計画され、学校としてひと通りの活動が回る最初の年となった。今後も学校自己評価等を活用し、PDCAサイクルを機能させて、一層本校の教育を充実したものにしていきたいと考えている。